

第8期介護保険事業計画「取組と目標」に対する自己評価シート

※「介護保険事業(支援)計画の進捗管理の手引き(平成30年7月30日厚生労働省老健局介護保険計画課)」の自己評価シートをもとに作成

保険者名	貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和4年度(年度末実績)		
	項目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	課題と対応策
ふじみ野市	②給付適正化	認定調査員の質により認定調査の結果に偏りが生じないようにする必要がある	要介護認定の適正化事業	認定調査員に対する研修を行うとともに、職員による認定調査票の点検を実施する。 認定調査票の点検割合 100%	なし	適切な方法により認定調査票が作成されるよう職員による点検体制を強化し、必要に応じて認定調査員及び認定調査を委託した指定居宅介護事業者等へ確認・指導を行った。 認定調査票の点検割合 100%	◎	要介護認定申請の件数が増加しているが、引き続き認定調査票の点検を全件行えるよう、点検体制の強化を図る。また、今後も継続して調査員に対して研修受講を促して質の向上を図る。
ふじみ野市	②給付適正化	市職員や主任介護支援専門員の資格を持つケアプラン点検員が居宅介護支援事業所を訪問し、介護サービスのケアプランが自立支援・重度化防止の観点からみて適切なものになっているかを確認・検証する必要がある。	ケアプランの点検事業	ケアプランの点検を実施する。 点検事業所 8箇所	なし	オンラインで委託事業者と市職員によるケアプラン点検(要介護者)を9事業所に対して実施した。また、ケアプラン点検時に行った指導・助言等については、点検の対象とならなかった事業所にも共有した。	◎	ケアプラン点検時に行った指導・助言等について、ケアプラン点検の対象とならなかった事業所にも共有し、全体のケアマネジメントの質の向上を図る。
ふじみ野市	②給付適正化	介護保険の住宅改修工事が、高齢者にとって本当に必要なものであるか、安全性に問題がないかを確認する必要がある。	住宅改修等の点検事業	書類の点検だけでは判断できないものについて、実地点検を実施する。 点検件数 2件	なし	疑義のある案件がなかったため、訪問調査は実施しなかったが、書類審査により必要性・安全性について全件審査した。	◎	書類審査の段階で疑義が生じた場合は、訪問による調査を実施していく。
ふじみ野市	②給付適正化	介護報酬の請求が適正であるか判断する必要がある。	医療情報との突合・縦覧点検事業	埼玉県国民健康保険団体連合会に委託して、点検を行った。 点検件数 4,000件	なし	埼玉県国民健康保険団体連合会に委託して、点検を行った。 点検件数 4,953件	◎	今後も、埼玉県国民健康保険団体連合会より提供される様々な帳票を活用しながら独自点検を実施していく。
ふじみ野市	②給付適正化	適正なサービスの利用を促し、事業所の架空請求・過剰請求を防ぐ必要がある。	介護給付費通知事業	埼玉県国民健康保険団体連合会に委託して、年1回介護サービスの利用状況等を記載した通知を作成し、介護サービス利用者へ送付する。 発送件数 3,980件	なし	令和4年4月から5月までの間に介護サービスを利用した被保険者を対象に、11月に介護給付費通知を送付した。 発送件数 4,485件	○	利用者のサービス利用料に対する意識を高めることで、適切な利用を促進する。また、事業所の架空請求・過剰請求の牽制効果を図るため今後も継続して実施していく。

保険者名	貴自治体において第8期介護保険事業計画に記載している内容					令和4年度(年度末実績)		
	項目名	目標を設定するに至った「現状と課題」	第8期計画における「取組」	「目標」(事業内容、指標等)	中間見直し	取組の具体的な実施内容、実績	自己評価	課題と対応策
ふじみ野市	②給付適正化	不適切な給付を発見し、事業所に対する指導を実施する必要がある。	給付実績の活用事業	市で所有している実績及び埼玉県国民健康保険団体連合会より提供される帳票を活用して、不適切な給付を発見し、事業所に対する指導を実施する。	なし	埼玉県国民健康保険団体連合会と他市町村間での検討会に参加した。今後の標準化を目指し、帳票の活用方法について検討した。	○	埼玉県国民健康保険団体連合会から提供される帳票等の活用方法を更に研究し、点検の標準化を目指す。また、ケアプラン点検や運営指導等においても活用し、引き続き事業所に対し、適正な請求についての指導及び周知を行っていく。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	軽度の認定者(要支援者)が増える中、サービスA/B/Cの事業を拡大する必要があるが、実施事業者・従事者や団体、利用可能な人数が増えない。	①入門的研修の実施(介護の担い手発掘) ②既存事業所に対する呼びかけ等 ③ケアマネジャーなどへの事業の利用促進に関する説明・研修等	①入門的研修の実施(介護の担い手発掘) R3 R4 R5 30人 30人 30人 ②既存事業所に対する呼びかけ等 事業所説明会等での呼びかけ ③ケアマネなどへの事業の利用促進に関する説明・研修等 自立支援に関する研修会の開催	あり	①入門的研修の実施(介護の担い手発掘) 講座修了者 18人 ②既存事業所に対する呼びかけ等 事業所説明会等での呼びかけ ③ケアマネなどへの事業の利用促進に関する説明・研修等 自立支援型地域ケア会議等を継続して実施した。	○	要支援者の増加により、サービスA・Bの必要性が高まっているため、サービスA・Bの実施場所やサービスを支える担い手を増やしていく必要がある。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	認定者数が増加しており、今後団塊の世代が後期高齢者となることに伴い、大幅に増加することが見込まれる。そのため、要介護状態となることの予防のために、一人一人の心身の状態に応じた介護予防を推進していく必要がある。	○ふじみんぴんしゃん体操を軸とした介護予防事業の普及 ○介護予防サポーターの養成 ○通いの場の推進	①ふじみんぴんしゃん体操を行う通いの場(箇所) R3 R4 R5 48箇所 53箇所 58箇所 ②通いの場に通う高齢者(人数) R3 R4 R5 3,482人 3,511人 3,541人 ③介護予防サポーターの養成 R3 R4 R5 25人 20人 20人	あり	①ふじみんぴんしゃん体操を行う通いの場(箇所) 39箇所 ②通いの場に通う高齢者(人数) 現在、集計中 ③介護予防サポーターの養成 10人	○	引き続き、住民向け講演会や広報活動を通じて介護予防の重要性の周知を行い、住民活動の支援を行っていく。
ふじみ野市	①自立支援・介護予防・重度化防止	要支援者や軽度要介護者が増加してきており、自立支援・重度化防止の考え方を介護予防ケアマネジメントやケアプランに浸透させ、個々が持っている能力を活用することが重要であるため、介護支援専門員や介護保険事業所に対して理解を求める必要がある。	○自立支援型地域ケア会議の開催	自立支援型地域ケア会議 ①事業所参加者延べ人数 R3 R4 R5 150人 150人 150人 ②会議開催回数 R3 R4 R5 28回 28回 28回 ③検討事例延べ件数 R3 R4 R5 80人 80人 80人	なし	自立支援型地域ケア会議 ①事業所参加者延べ人数 207人 ②会議開催回数 28回 ③検討事例延べ件数 64人	◎	自立支援型地域ケア会議等を継続して実施し、自立支援・重度化防止の考え方を普及するとともに、必要なサービスを検討していく。